

## 第一百八十九回 参議院環境委員会会議録第六号

平成二十四年六月十八日(月曜日)

午前十時一分開会

出席者は左のとおり。

委員長 松村 祥史君  
 委員 理事 小西 洋之君  
 小見山 幸治君  
 北川イッセイ君  
 池口 修次君  
 谷岡 郁子君  
 輿石 東君  
 小坂 憲次君  
 鈴木 政二君  
 谷川 秀善君  
 舟山 康江君  
 中川 雅治君  
 加藤 修一君  
 水野 賢一君  
 市田 忠義君  
 平山 幸夫君  
 亀井典紀子君  
 福島みづほ君  
 生方 幸夫君  
 近藤 昭一君  
 北斗君  
 吉野 和徳君  
 康幸君

副大臣 国務省産業大臣 枝野 幸男君  
 大臣政務官 國境務大臣 細野 豪志君  
 内閣府副大臣 吉田 泉君  
 横光 克彦君  
 園田 康博君  
 高山 智司君  
 山下 孝久君  
 佐々木克樹君  
 尾本 彰君  
 班目 春樹君  
 尾本 駿介君  
 近藤 駿介君  
 畠谷 敏秀君  
 山本 哲也君  
 谷津龍太郎君  
 奥主 喜美君  
 伊藤 哲夫君  
 白石 順一君  
 綱男君

政府参考人 常任委員会専門員  
 内閣府大臣官房審議官 員会委員長  
 内閣府原子力委員会委員長  
 全委員会委員長  
 内閣府原子力委員会委員長  
 資源エネルギー庁電力・ガス事業部長  
 資源エネルギー庁原子力安全・保安審査官  
 環境大臣官房長  
 環境大臣官房審議官  
 環境大臣官房廃棄物・リサイクル対策部長  
 環境省総合環境政策局長  
 環境省自然環境局長

○委員長(松村祥史君) ただいまから環境委員会を開会いたします。政府参考人の出席要求に関する件についてお詫りいたします。  
 ○委員長(松村祥史君) ただいまから環境委員会を開会いたします。政府参考人の出席要求に関する件についてお詫りいたします。  
 ○委員長(松村祥史君) ただいまから環境委員会を開会いたします。政府参考人の出席要求に関する件についてお詫りいたします。

○委員長(松村祥史君) ただいまから環境委員会を開会いたします。政府参考人の出席要求に関する件についてお詫りいたします。

○委員長(松村祥史君) 御異議ないと認め、さよう決定いたします。

○委員長(松村祥史君) 特定産業廃棄物に起因する支障の除去等に関する特別措置法の一部を改正する法律案の審査のため、本日の委員会に、理事会協議のとおり、内閣府原子力委員会委員尾本彰君外四名を政府参考人として出席を求める、その説明を聴取することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長(松村祥史君) 御異議ないと認め、さよう決定いたしました。

○委員長(松村祥史君) 特定産業廃棄物に起因する支障の除去等に関する特別措置法の一部を改正する法律案を議題といたします。

本案の趣旨説明は既に聴取しておりますので、これより質疑に入ります。

○徳永久志君 おはようございます。民主党の徳永久志でございます。

それでは早速、議題となりました産廃特措法改

正案についてお伺いをしてまいります。

産廃特措法のいわゆる期限延長につきまして

は、過日もこの委員会で視察に参りました三重県、また、私の地元であります滋賀県を始めとい

たしまして、不法投棄事業を抱える県から強い要望があつたところもあります。また、民主党といたしましても、野党時代、平成二十一年四月に議員立法で提案をしたところであります。そうした経緯の中で、今回改正法案が提出をされたことに高く評価をさせていただきますとともに、速やかな成立を望むものであります。

まず、平成十五年の法の制定時におきまして、十年という期限を区切つてその間にしっかりと解決していくんだという強い意思が語られたわけ

でありましたけれども、今日までの間、結果的には延長をせざるを得ない状況になつたということ

もあります。

そこで、法制定時から今日までの間の取組の成果、そしてまた法制定時における見込み、想定はどういうなもので、そして、どういう取組があると総括ができますでしょうか。簡単にお願いいたします。

○国務大臣(細野豪志君) 産廃特措法が制定をさ

れました平成十五年の時点では、平成十年の六月以前までに行われた産業廃棄物の不法投棄等につきまして、不適正処理によりまして大規模な生活環境保全上の支障が生じていた事案がございまし

たので、その支障を除去することが課題となつておりました。こうした状況を背景に、国の支援の下で着実に事業を進めることを目的といたしましてこの特措法が制定をされたという、そういう経緯がございます。

その際、この法律は、恒久法とするのではなくて十年間の时限立法として制定をされました。それは、香川県豊島や青森・岩手県境といった平成

第十一部 環境委員会会議録第六号

平成二十四年六月十八日

【参議院】

わっているわけではありません。

したがつて、保安院がこの美浜の二号機について高経年技術評価で事業者が出しているものについて認めたとしても、それは再稼働を認めることは全く異なりますので、新しい規制委員会が誕生した後にそれについてはしっかりと判断をしていくことになりますので、そこは是非分けて考えていただきたいと思います。

○加藤修一君 それから、次の質問に行きますけれども、全体として、これ、この規制委員会がで

きて以降の話ですけれども、防災指針とか安全基準、これが全体として完備されると、体制が整うのはいつかという話なんですねけれども、今、現実的な問題として、四国電力の伊方原発の三号機、それから再稼働の前提とされたストレステストの一次評価については保安院が妥当として判断している。その結果を確認する原子力安全委員会がどういうふうに言っているかといいますと、いつまで組織が存続するか分からないと、何もそれに対しての作業はやっていないと、そういう話

あるいは、十九基分の一次評価結果が保安院に提出されて、今は審査中でありますけれども、この保安院も安全委員会もこれはこの法律ができる以降は廃止になるわけでありますけれども、これは安全性の確認ということについてはどういう体制に実はなつていいかと。つまり、これは新しい安全基準で厳格に確認できる体制が整うまではいわゆる原子力規制委が安全確認の方法や日安などを決めるということになるというふうに聞いておりますけれども、その具体的な中身はまだ決まっていないと、当然でありますけれども。これ、そういうことを含めて、先ほど申し上げました、冒頭に申し上げました防災指針の関係とか安全基準の関係ですね、これはいつ、大体どのころまでにそれが完備されるのか、どのように考えたらよろしいですか。

○国務大臣(細野豪志君) まず大前提として申し

上げますと、原子力安全・保安院と原子力安全委員会は、今行政上存在をしておる組織そのものでござりますから、新しい規制組織が誕生するまで

の間は、稼働していないものも含めて安全性についての確認はこの組織がしっかりとやらなければなりませんし、ましてや、それこそ事故に備えるといふことも含めて役割がございますので、そこは絶対に緩むことなくしっかりと最後までやり切らなければなりませんし、ましてや、それこそ事故に備えるとすればならないと考えております。

新しい規制組織が公布後三か月、法律を通していたいた後の三ヶ月以内に誕生するということになります。新しい規制委員会が誕生しましたら、その時点では原子力安全委員会や原子力安全・保安院は廃止をされるということになりますので、そこからは一新をした組織の下で様々な判断が行われるということになります。

あくまで対応はその後新しい規制委員会の下で行われることになるわけですが、客観的な状況として申し上げるならば、恐らくその原子力規制委員会でます取り組んでいただけるのではないかと思つております。それと申しますと、三月末には中間報告を指針で出しておられますから、そのベースが思つておりますのは防災指針だらうというふうに思ひます。それといいますのも、原子力安全委員会がやつた仕事といたしまして、三月末には中間報告を指針で出しておりますから、そのベースができるおおりますので、これをできるだけ早い時点で法律に基づいた指針として確定をしていく、これが最も最初の作業になるのではないかと思いま

るという、このやり方自体が間違つているんだけれども、要は民公の三党が合意をすれば、あとはどんな強引な国会日程でも組むことができれば、その中でも特に問題にしたいというふうに、聞き捨てならないのは、金曜日の本会議で、あなた、近藤さん、あなたが何かみんなの党から質問通告がないというふうに本会議で答弁しましたよね。あれは一体どういうことですか。

そもそもこの法案は、あなた、木曜日にこれ、修正協議がまとまつたんでしょう。法案が出てき

○加藤修一君 時間が来てしまいましたけれども、この新しい防災指針の関係については、確かに三月二十二日の中間報告だと思いますけれども、これはまだパブリックコメントにもかけてい

ないわけですよね。いち早く、今の段階でかけたつてよかつたわけですよ、三月段階でもです。それ、やつてないことそれ自体が非常に私は鈍感だと思っております。またこの関係については次回の審議にやりたいと思います。

以上で終わります。

○水野賢一君 みんなの党の水野賢一です。

この法案は、先週の金曜日に参議院では異例と

いうべき二ラウンドの本会議をやつて、二ラウンド目の本会議で趣旨説明、質疑をして、それで今

日の委員会に至つたわけです。ここまでに至る過程、この審議の進め方 자체がもう異例のことずくめで、はつきり言つてとても納得はできないんだけれども、要は民公の三党が合意をすれば、あとはどんな強引な国会日程でも組むことができます

けれども、その中でも特に問題にしたいというふうに、聞き捨てならないのは、金曜日の本会議で、あなた、近藤さん、あなたが何かみんなの党から質問通告がないというふうに本会議で答弁しましたよね。あれは一体どういうことですか。

そもそもこの法案は、あなた、木曜日にこれ、質問通告ができるんですか。本来、我々は、こんなのは金曜日の朝ですよ。我々が条文を手に入れただければ地域の防災計画を作れますので、様々な準備がそれぞの地域でできるようになります。

これは是非新しい組織には急いでやつてもらいたいと、そのように思つています。

問題は、規制の中身ですね。例えばバックファイットであるとかシビアアクシデントであるとか四十年ルールであるとか、そういったものといふのはこれは中身を相当技術的、専門的に詰めていかなければなりませんので、十ヶ月以内にそ

うふうに言つているんですか。わびはないんです

か。

○衆議院議員(近藤昭一君) 水野議員の御指摘、私はまずおわびを申し上げたいと思います。

と申しますのは、私は、ちょっと私の言い方が悪かったと思います。ある意味で、想定しなかつたというと大変に失礼かもしれませんけれども、廃炉審議会のことの御質問でありました。そして、私は、私としては廃炉序まであるべきだと申し上げました。それは、前もってその質問について想定をしていなかつたので、いわゆる修正協議をさせていただいた中でそのことについての論議はなかつた。論議というか、そのことについてのやり合せがなかつた。そういう意味で、想定がなかつた中で、私としては、こういう言い方で申し上げたということになります。

また一方、そうしたタイトな時間の中であつたことは、それは反省をしなくてはならないことがあります。それは反省をしなくてはならないとも思つています。

以上であります。

○水野賢一君 私も、何も答弁内容が間違つてい

ると言つているわけじゃないんですね。だから、この審議の進め方と、何か通告ないつて、できておりますので、これをできるだけ早い時点

で法律に基づいた指針として確定をしていく、これが最も最初の作業になるのではないかと思います。これは極めて重要でありますから、そのベースができるおおりますので、これをできるだけ早い時点

で法律に基づいた指針として確定をしていく、これが最も最初の作業になるのではないかと思います。これは極めて重要でありますから、そのベースができるおおりますので、これをできるだけ早い時点

で法律に基づいた指針として確定をしていく、これが最も最初の作業になるのではないかと思いま

条の七項にいろいろ定められていますよね。禁錮の刑に処せられた人とかいろいろ書いてありますけど、その中の三号を見ると、要するに、これ原子力の、余り、俗に言う原子力関係者たちはやつぱり委員とか委員長はまずいよねということだと思ふんですけど、これだけ見てもよく分からぬですね。

だから、ちょっと立法者の意思として教えてもらいたいと思うんですけど、例えば東京電力とか原発を持っているような会社の役員だった、過去に役員だった人とかというのは、これ委員になれるんですか。

普通に考えて、今般の東電の事故を見ても、いわゆる原子力村というふうに言われている人たちの中にで行われていたことが事故を拡大させたといふこともございましたので、これからつくられる原子力規制委員会については、そういう村にかけて属して、どつぶりつかつた人たちが委員にならぬ、あるいは委員長になるということは考えられないし、それが適当であるというふうには私は思ひません。

○水野賢一君　そうすると、今の御答弁だと、單に現在というだけじゃなくて、過去も含めてそういうところに、まさにどつぶりつかつたというふうにおおしやつていらっしゃつたので、そういう役員とかだった人は駄目という、そういう法案の理解でいいですよね。

じゃ、続けて、場合によつては、ちょっとと統けたところで併せて答えてもらつてもいいんだけど、役員とかそういう人たちはずいびでしようけれど、社員とかそういうようなものも、どちら辺まで規制されると思つていいんですか。

○衆議院議員(生方幸夫君)　それは、規制委員会の方のガイドラインを作つて、そこで規制をしたいというふうに思つております。

○水野賢一君 ジヤ、その相場観として、要するに提案者なんだから、提案者としてはその相場観がどの辺かということは、これは立法者の意思として示しておいてもらわないと分からぬでしょ。その立法者がどのぐらゐを相場観にしていたかということぐらいは示してくださいよ。要するに、過去にどつぶりつかつてた人はまずいといふのはさつき答弁にあつたので分かつたけれども、要するにどの辺がラインだというふうに思つてゐるんですか。

○衆議院議員(生方幸夫君) これ、規制委員会がきちんとできまして、規制委員長の方できちんととしたガイドラインを作つて、委員長の方で判断することであつて、今、私がここでどういう何といふんでか、方は適当でどういう方が適当でないといふ基準を示すことはできないし、示すべきではないというふうに思つております。

○水野賢一君 そうやつて、結局、先送りしていくと、どういうものだか分からぬやうなものになつていつちやうと、いう懸念があるんですけど、ちよつと今の関係するんですけど、十一条には、十一条のところ、三項ですね、これ、要するに、委員とか委員長は報酬を得て他の職務に従事したり営利事業を営んだりとかしちやいけないと、いうふうになつてますけど、これはあれですか、要するにほかの業を営んじやいけないんでしようけど、自分が何か業を営んだりとかするんじやなくて、どこかの会社の顧問とかそういうのはいいんですか。報酬を得て、いる顧問ですね。

○衆議院議員(生方幸夫君) 基本的に専従の委員長及び委員でござりますので、普通で考えれば、報酬を得て、いる顧問というの、あり得ないというふうに私は考えております。

○水野賢一君 そうすると、だから、どこかの例えれば、これは電力会社だけを言つて、いるんですか。電力会社の顧問とかそういうものは原子力に關係するからまずいけど、そんじやなくて、例えば、そういうことと直接關係ない、いよいよなんかの会社の、原子力と關係ない、そういうような

○衆議院議員(生方幸夫君) 基本的には報酬を得ているということになれば、ある程度の時間を割かなければいけないということになるというふうに思いますが、これはもういつ何き何があるか分からぬという極めて重要な委員長であり委員でありますので、常識的に考えて、報酬を得て顧問になるようなことは適当ではないといったふうに考えております。

○水野賢一君 私も適当じゃないというふうに思いますよ。それで、その中で、そうすると、この前から、生方委員長はここでお聞きになつてゐるわけじやないかもしねないけど、細野大臣なんかもお聞きになつていると思うけど、要是、今だつて、これは原子力委員会の方の話ですね、原子力委員会の委員の、今日も来ているけれども、尾本さんは原子力委員でいながら、今年の三月ですよ、今年の三月まで東京電力から顧問料をもらつて、これは原子力委員会の方の話ですね、原子力委員会の委員の、今日も来ているけれども、尾本さんもいたんですね。要するに事故が起きたから辞めただじやないですよ、事故が起きてから一年間もらい続けていたんですよ。こういうような人というのは当然新しくできる原子力規制委員会ではあり得ないという、そういう理解でよろしいですね。

その前に、尾本氏は事故後も一年間、堂々と東電の顧問料を一方でもらつていて、多分、月百万ぐらいですよ、一方、原子力委員でもあつたといふことはさすがにないということですね。

○衆議院議員(生方幸夫君) まあ、あり得ないと 思います。

○水野賢一君 そうすると、大臣、今は原子力でもよくバツクフイットというふうに言われて、新しく基準とか厳しくなつたものも廻るとか、そういうふうに言われたりしていますよね。まあ、それはいろんな技術的なことの部分かもしれないけれども。少なくともこの原子力規制委員会ではあるかね。

り得ないというふうに、生方さんが言つたようなことが、原子力委員会ではそういう人が今、今日この時点ですよ、今日この時点でも委員でいるんですよ。あそこにいらっしゃるけれども。細野さん、ちょっとやっぱりこれは辞めた方がいいというふうに思ひませんか。

○國務大臣(細野豪志君) 水野委員のおつしやっている意味はよく分かります。そこは、これからこの委員の選定というのは、もちろん法的な欠格事由も明確にした方がいいと思いますし、法律的にそうなっていますから、今回は、さらには、それとどまるのではなくて、ガイドラインを設けて厳しい基準の下でやると。さらに、それに上乗せをしてさらに情報公開という、やはり三段階ぐらいいの厳しさを持たないと国民の皆さんから受け止められないというふうに思うんですね。

これは全く発想の転換なんです。これまで国会の同意人事をする場合は、その同意が全てですから、前提なしで同意をしていただいて、それでもう全て終わつていたわけですね。一回同意をされると、今は尾本委員についてどうかというお詫びがありましたが、例えば私がここで何を言おうが、それは影響なく身分は守られるわけです。ですから、そういう国会同意に全てもう丸投げでそれで決めてしまえば完全に守られるという仕組みではなくて、常に情報公開とそういう厳しいガイドラインとで国民の皆さんから厳しい批判にさらされるという、そういう明らかにもう去年の三一二で時代が変わったんだという、そこを示さなければならぬと私は思つております。

○水野賢一君 私も、法律論でいえば、細野大臣が今おつしやっているのはまあ確かに一理あるのかもしれないと思いますよ。つまり、国会で同意をされた以上、それは細野さんが、この人はもう辞めるべきだというふうに仮に思つても、大臣が仮に思われたとしたって、それは任期の期間は守られているわけだから、それは解任したりとか、そういうことはできないという、それは理論的に